



総務省によると、今年1月1日現在の日本人の総人口は1億2520万9603人（前年比0.30%減）となり、9年連続で減少。少子高齢化が進んでおり、人材の確保は厳しくなる一方だ。高齢化が著しい物流業界でも世代交代が課題となるが、若年層を取り込むのは容易ではない。若い世代から、物流業界が就職先として選ばれるためにはまず、若い世代の思考を理解する必要がある。文教大学（近藤研至学長、埼玉県越谷市）の学生4人に、「物流業界への就職」をテーマに話を聞いた。（三村秀寿）

文教大学の3年生4人が回答

話を聞いた学生は、情報学部情報社会学科の工藤佑太郎さん、同学部メディア表現学科の吉田朋己さん、及川夏季さん、尾形実優さんの4人。全員が3年生で、就職活動を控えている。

「仕事内容が分からない」「働く自分想像できない」

とがあるが、全く同じところ、4人はそれぞれ次のように回答した。（敬称略）

吉田「他の業界だと、どのような仕事で、女性として働いているのか、彼らの世代には知られていない」ということがわかる。

とがある。若い女性で働いているところを見ることがないのだから、女性として働いている「ビジョン」が描けない。

このように、物流業界のことがわからないため、全体的にイメージがつかない。物流業界で働く自分の方が強くなると、給料も重視しない」と思う。

共通してわかることは、物流業界のことが知られていないということ。この状況を改善するために、もっと業界のことがPRしなければならぬ。

吉田「業界全体のイメージアップが重要だと思う。イベントとかを積極的にやったら面白い。会社名がわからないと興味を持てない」

工藤「ユーチューブやSNSなども良力を感じない」

尾形「私たちの世代は悟り世代なので、何でも疑ってかかる。良いイメージだけを前面に出されると疑いの目で見ちゃう。実際はどうなのかということがわからなければ、魅力を感じない」

及川「運送業界だとキャリアアップができないのではないのか。定年までずっと同じ仕事をしているのではないかというイメージが強く、夢が持てない」

尾形「仕事内容が限定されているイメージがある。若い女性で働いているところがあるのか、または、就職先の候補になりうるかという質問を

「仕事内容が分からない」「働く自分想像できない」

とがある。若い女性で働いているところを見ることがないのだから、女性として働いている「ビジョン」が描けない。

このように、物流業界のことがわからないため、全体的にイメージがつかない。物流業界で働く自分の方が強くなると、給料も重視しない」と思う。

共通してわかることは、物流業界のことが知られていないということ。この状況を改善するために、もっと業界のことがPRしなければならぬ。

吉田「業界全体のイメージアップが重要だと思う。イベントとかを積極的にやったら面白い。会社名がわからないと興味を持てない」

工藤「ユーチューブやSNSなども良力を感じない」

尾形「私たちの世代は悟り世代なので、何でも疑ってかかる。良いイメージだけを前面に出されると疑いの目で見ちゃう。実際はどうなのかということがわからなければ、魅力を感じない」

もっとと業界のPR・イメージアップ必要